

課題施工要領書

2019.8.9.修正 1(三原)

- (1) 架台点検 事前に審査委員の指示により架台の点検を行い、寸法の修正やねじれ等がある場合は申し出て、確認のサインをもらう。
- (2) 墨出し 陸墨および基準墨は床パネルから測る。
墨出しは、課題図面に従い基準墨より測りはじめ、各芯墨および逃げ墨を7本以上出す（レーザーレベルの使用可）。
- (3) 糸張り 角の糸張りは、仕上げの基準となるので念入りに取り付ける。
目地取付けの糸を張り、溝目地を GL ボンドで張り付ける。
- (4) 石膏置引き 引き型は、課題図面にに基づき、事前に用意する。
材料の無駄を無くす工夫をする。
角の欠けや型傷の無いように仕上げる。
- (5) 置引き取付け 置引き加工後、図面寸法どおりに割り付けをする。
割り付け寸法どおりに加工する。
張り付け材は、GL ボンドまたは焼石膏を使用する。
架台側に定木を打ち、張り付け後ビス止めをする。
ビス穴は丁寧に補修する。
- (6) 天井 見付置引きと架台の隙間を GL ボンドで詰める。
さやか天井材を2回塗りとし、鏝むらをよく取り無地仕上げとする。
- (7) 既調合
ジュラク塗り 中塗りは、B ドライを2回塗りとし、鏝むらがないようにする。
いしかわ朱を塗り付け、鏝むらをよく取り仕上げる。
石膏部材とのチリ回りは汚れがないようにする。
- (8) 既調合
砂壁塗り 中塗りは B ドライを2回塗りとし、鏝むらがないようにする。
砂王を塗り付け、鏝むらをよく取り仕上げる。
角は9mm丸面に仕上げる。
石膏部材とのチリ回りは汚れがないようにする。

- (9) 洗出し蛇腹
現場引き
引き型は、図面に従って事前に用意する。
架台に墨を打ち、走り定木を打ち付ける。
ドカモルで中塗りをする。
セメントペーストを塗り、追っかけて大磯石を塗り付け石が均等に
そろうように伏せ込み、刷毛洗いとする。
- (10) 磨き壁
下地調整材で中塗りをする。
上塗り用石灰クリームを塗り付ける。
上塗り後、鏝でなで込んで光沢を出す。
角は、6mm丸面に仕上げる。
- (11) 鎧壁
鎧の割り付けおよび墨出しをする。
塗り厚を確認して、Bドライで傾斜ができるように付け送る。
中塗りはBドライを2回塗りとし、鏝むらがないようにする。
漆喰を2回塗りとし、鏝むらをなくし、仕上げる。
- (12) 丸柱
掻き落とし
ライムコートは、均一に塗り付ける。
硬化状態を見計らい掻き落とし器で掻き落とす。
丸柱は、円筒の形状になるように留意する。
目地は、課題図面に基づき掻き残す。
表面は、刷毛で掃き仕上げる。
- (13) 擬石
色セメントモルタルを塗り付ける。
鏝・刷毛等の道具を使用して擬石調に仕上げる。
- (14) シラス壁
中霧島壁ワイルドを塗り付ける。
スチロール鏝を使用して仕上げる。
テクスチャーは、選手の感性によるものとする。
角は、12mm丸面で仕上げる。
- (15) 黄土中塗り
仕上げ
チリ塗りは、2回塗りとし、チリ際をしっかりと押えて塗り付ける。
角測りの和紙は、幅4cmを水で濡らし、手で切る。
角土のこすり塗り後は、定木を使い、角を立てて再度定木を返し、正
確な鋭角をつくる。
和紙は、幅約2cmに振り分けて、張付け後、乾いた定木をあてがい、
角にアマだけをよせて、ピン角をつくる。

平場部分はチリ際より、こすり塗り後、2回塗りをして、鏝むらが無いよう気を付けながら、肌が均一になるように仕上げる。

- (16) 巾木 セメントモルタル塗り
黒セメントモルタルを2回塗りとし、鏝むらが無いように仕上げる。
- (17) 床ボーダー 洗出し
図面に従って墨を打ち、墨に合わせて定木を打つ。
マルチフィラーをこすり、下地をつくる。
セメントペーストを塗り付け、追っかけて砂利を塗り付け石が均等にそろうように伏せ込み、刷毛洗いをする。
角は、6mm丸面に仕上げる。
- (18) 床
新黄華3分を敷き込み、底が見えないように均等に敷き込む。
- (19) 清掃
課題内の清掃は、時間内に終了させる。
課題外の掃除と道具片付けは、時間外も可とする。